

長崎の歴史から現在まで

多摩市立聖ヶ丘中学校 3年 西田 真海

古くからキリスト教信仰の地として知られる長崎。安土桃山時代や江戸時代にキリスト教を禁じられても、長崎には隠れキリシタンはたくさんいたそうです。「長崎に原爆が落ちた」ということはとても有名ですが、正しくは長崎の浦上に落ちた、といっても良いでしょう。そこは多くのキリシタンが暮らす土地で、浦上天主堂がある、キリスト教の信仰を大切に守ってきた場所でした。

皆さんは、日本二十六聖人をご存知でしょうか。それは、1597年に処刑されたキリスト教信者の人々です。豊臣秀吉は、1587年に、バテレン追放令を出してキリスト教を禁止しました。理由は、長崎のキリシタン大名の団結による、キリスト教徒たちが反乱をおこすことをおそれたためなどといわれています。豊臣秀吉は長崎、西坂で26人のカトリック信者を磔の刑に処するように命じました。後にカトリック教会によって26人は聖人に加えられたため、「二十六聖人に殉教」と称えられ、「日本二十六聖人」と呼ばれるようになりました。その殉教の地が現在の西坂公園です。私たちは日本二十六聖人記念館に見学しに行く予定でしたが、台風の影響により、長崎にはいかず、東京で代替りのプログラムを行いました。1日目は、ユーチューブ上での平和式典の視聴や、「この子を残して」の映画の視聴、そして、リモートで日本二十六聖人記念館の案内をして下さった宮田さんのお話を伺いました。2日目には埼玉ピースミュージアムの見学、丸木美術館の見学に行ってきました。

日本二十六聖人記念館の宮田さんのお話の中で特に印象に残ったことは、「今も隠れキリシタンはどこかにいる」ということでした。私はその話を聞いた時、キリスト教を禁止されてもなおキリスト教を信仰し続ける信念の強さとその苦しみを持つ人がまだ世界にいるのだと気づきました。戦争も同じで、戦争の苦しみというのは、今も続いているのです。

丸木美術館では、丸木夫妻が30年以上かけて完成させた『原爆の図』を見てきました。その中で、印象に残ったことは、被爆している人と被爆していない人の感じ方の違いでした。『原爆の図』はかなり惨くて衝撃的なものでした。しかし、実際に被爆した人たちはこうだったそうです。「きれいに描きすぎている」と。実際には、もっと悲惨なことが起こっていたと思うと本当に想像ができませんでした。この体験を2度と繰り返さない為、そして後世に原爆の記録を残すため、その思いが丸木夫妻にあったのだとおもいます。

以上が、私がこの活動で体験したことです。戦争は今を生きる私たちに無関係なことではありません。今も、戦争の体験で苦しんでいる人がいるかもしれません。今も、世界のどこかで隠れて進行しなくてはならないキリシタンの人々がいるかもしれません。今も、戦争の傷跡を抱え誰かを憎まなくてはならない人がいるかもしれません。この先、そのような思いをする人がいない世の中になるように、でも、そうした人々がいる現実を忘れないように、自分でできることをしていこうと思います。